

# 西村滋「お菓子放浪記」初の舞台化

## 本当の幸せを求めて

戦中から戦後の動乱期をたくましく生きる少年の姿を描くミュージカル「お菓子放浪記」(静岡新聞社・静岡放送後援)が10月8、9の両日、静岡市で行われる。同市のノンフィクション作家西村滋の小説3部作が原作。公演を企画したチーム・クレセントの主宰片山美穂が、静岡市駿河区登呂の静岡新聞社を訪れ、「お菓子は本当の幸せの象徴。確かな目と心で本物を見つけて大切な幸せを感じてほしい」と語った。

昭和15年、店の菓子を盗んだ空腹の少年シゲルは、刑事に菓子パンを買って与えられた。人の優しい与えられた。人の優しい。夢も希望もない日々、

唯一の救いは美人の先生が歌う「お菓子と娘」。世の中に氾濫する偽物から本物を見いだそうとするシゲルは、幼いころに

### 8、9日 静岡公演 「確かな目」養うヒント



ミュージカル「お菓子放浪記」の稽古に臨む出演俳優一都内

「お菓子放浪記」の静岡公演は静岡市葵区のしずぎんホールユーフォニアで、8日は午後7時、9日は午後2時開演。前売り券3000円、当日券3200円。問い合わせはチーム・クレセント<電070(6470)0384>へ。

下恵介監督(浜松市出身)によりテレビドラマ化された。3年前には映画にもなった。今回は、続編、完結編を含む長大な物語を初めて舞台化する。西村の詩に基づくオリジナル曲と合わせ、コーラスには当時の歌謡曲なども登場する。

チーム・クレセントは、西村作品の上演を通じて青少年の健全育成や文化交流を目指すプロジェクト。趣旨に賛同した俳優と共に舞台をつくり、地方を中心に上演する。脚色・演出は「はだしのゲン」も手掛ける木島恭。

★「天狗のかくれ里」10組招待 劇団「新生ふるきやら」は、10月9日午後6時半から浜松市のアクトシティ浜松中ホールで開くミュージカル「天狗のかくれ里」に10組20人を招待する。

子供たちが森に迷い込み、地球温暖化の危機に理解を深める物語。浜松公演と明記した上、氏名、住所、電話番号を書き、新生ふるきやらにファクス<042(385)1180>で2日までに申し込む。当選者には、事務局が8日までに連絡する。

問い合わせは新生ふるきやら<電042(386)8355>へ。

★愛之助、11月に全国巡業 片岡愛之助が初めて全国巡業の座頭をつとめる「松竹大歌舞伎」が11月12日から25日にかけて各地を巡る。愛之助は「見に来たお客さまに『もう1回見たいね』と言っているだけのような芝居作りをしたい」と意気込む。

今回は愛之助と中村老太郎、上村吉弥、市川男女蔵に、小規模の一座での巡業。州を舞台にした義太夫狂言「彦山権現誓助剱」と、華やかな舞踊「団子売」を披露する。

片山は「原発問題や憲法改正で揺れる現代、物事を自分で判断することは皆に求められている。生きる勇氣や平和の尊厳を感じてほしい」と話す。



「西村滋さんの著作との出会いは人生を左右するほど衝撃的だった」と話す「チーム・クレセント」主宰の片山美穂。静岡市駿河区登呂の静岡新聞社制作センター